

長葱生産向上のために

～令和3年産の課題と対策～

J Aおとふけ 販売部 青果課

令和3年産を振り返ると

【生産実績】

年産	面積 (ha)	集荷量 (ト)	製品量 (ト)	歩留 (%)	粗原反収 (kg/10a)	製品反収 (kg/10a)
令和3年	2.9	312.5	118.1	37.8	10,777	4,072
令和2年	2.5	289.8	94.2	32.5	11,593	3,768
令和元年	0.7	68.7	26.7	38.8	9,813	3,814

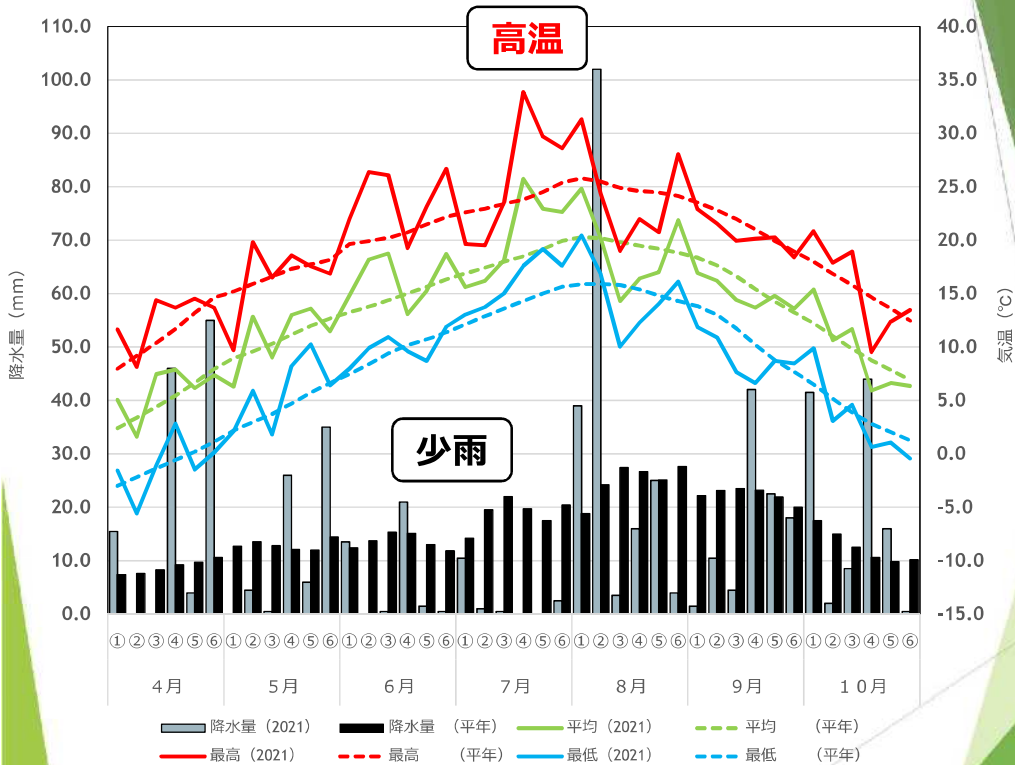
●粗原反収は10.7トと昨年より低かった。
⇒今年度より圃場段階で茎葉カットを実施して頂いたため

●歩留まりは37.8%と昨年より高く、製品反収は4トを超えた。

目標歩留まり**40%**

製品収量で**4,000kg** ⇒達成！

令和3年産を振り返ると



令和3年産を振り返ると

高温干ばつによる生育遅延・・・

- 6～7月の少雨、7月中旬からの高温干ばつにより、活着の遅れ、生育の停滞が発生した。

9月後半から病害の発生（さび病）

- 8月以降は適度な降雨があり、生育は回復。しかし、一部圃場ではさび病等の病害が発生した。
→収穫遅れや肥切れを起こすと病害が増えやすい

高温乾燥時の培土

- 断根による生育停滞。土壤水分が少ないときの培土は危険。
→培土のタイミングに高温が続いた・・・

課題① 初期生育の向上 = 育苗管理

- 近年は定植前後の時期に乾燥条件となることが多く、活着や初期生育が遅れてしまう。

⇒ 悪条件に負けない健苗育成

課題② 培土の方法・タイミング

- 過度な培土や培土時の条件によっては生育停滞・病害発生の原因となる。

⇒ 収量・製品率向上のための培土技術

健苗育成のポイント

育苗の経費・・・

【育苗経費比較】

購入苗① (播種から育苗まで)	購入苗② (播種のみ)	自家苗
311,840	96,720	67,760

※自家苗には播種器具・アングートレイ・根切りネット・保温資材・トンネル支柱 等は含んでいません。

※全て税別

	反当支払金額	苗代	肥料・農薬費	差引
購入苗①	326,344	311,840	46,149	-31,645
購入苗②		96,720		183,475
自家苗		67,760		212,435

●購入苗は高価なため自家苗を推奨！



育苗に失敗しないため

播種から発芽までの管理

- 播種から発芽するまでの高温は要注意！特に強日射は発芽不良を招く。発芽時は温度と湿度に敏感。



播種から発芽までの適温は15～20℃。ハウス内の温度が高くなったら換気・遮光する

【高温対策】
トンネルにして遮光をする。資材はシルバーポリを使用

水管理について

育苗初期の管理

- 発芽直後～本葉2枚頃は乾燥に弱いので、水がトレイ底に浸透するまで毎朝十分灌水し、晴天日は昼にも灌水する。
- 本葉2枚頃までは根量が少ないので、苗が倒れないように灌水する。

灌水量が多すぎたり、夕方に灌水すると…
徒長苗になる！

水管理について

育苗中期の管理

- 天候やポットの状態に合わせて灌水量を調節する。
晴天日や乾燥しているときは多めに、曇天日や雨天日は灌水量を減らすか、灌水しない。
- ポット内の土を一度乾燥させてしまうと、水を弾いてしまう。
その場合は水の弾きが無くなるまで、数回に分けて灌水を繰り返す。

灌水は均一に
ポットの周辺部は特に乾きやすいので注意！

育苗後期の管理

- 育苗後期は、定植に備えて苗の順化を図る。
少しずつ外気温に近い温度で管理し、外気に馴らすようにする。
- 葉色が薄くなったら、灌水時に液肥を混ぜて葉面散布する。
- 葉鞘が太く、丈夫な苗に仕上げる。
- 移植当日についても、移植前に十分灌水すること。

ネットマールⅡを使用している場合の育苗管理

- ネットマールⅡを使用している場合、置き床まで根が到達しない。



- **置き床から水分や養分を吸えない！**

そのため・・・

- ポット内の土が乾きやすくなる。
- 育苗土の肥料切れが早くなる。



対策として・・・

- 通常よりこまめに灌水する。
- 葉色が薄くなったら、追肥もしくは葉面散布を実施。
(硫酸を坪当たり80g、もしくは硝酸カルシウムを坪当たり120g施用。窒素で5kg/10a相当)



葉切り作業について

葉切り作業



葉切り後の苗



【1回目】

- 草丈が15cm程度になったら10cm程度にカットする。
※1回目は、葉が細く弱いため、伸ばしすぎないようにする。

【2回目以降】

- 草丈が18~20cmになったら12~15cmにカットする。

【葉切り作業時の注意点】

- 葉切りは晴天日の午前中に実施する。
⇒葉は曇天日や午後になるとしおれやすくなり、刈残しが出てしまう
- 葉切り直後は苗の切り口を早く乾燥させて病気の発生を防ぐために、灌水は控える。 ⇒前日には十分に灌水すること
- 置き床は平らにする。 →苗の切り高を一定にする
- 苗の凹凸は定植後の生育のバラつきにつながる。

タマネギバエ（減収のダメージが大きい難防除害虫）

食害による倒伏



幼虫



- 定植後1か月後に倒伏株が見られる。畦に沿って連続で食害される。

【発生要因として】

- ① **定植直前の灌注処理（ジュリボフロアブル）を必ず行うこと！**
→定植時の粒剤処理（作条混和）だけでは、完全ではない
- ② 育苗期間の葉切作業後に成虫が寄生し、ポット内に産卵し、定植圃場でふ化した可能性→ハエはネギの臭いで寄ってくる

培土作業のポイント

培土の方法

【作業内容】

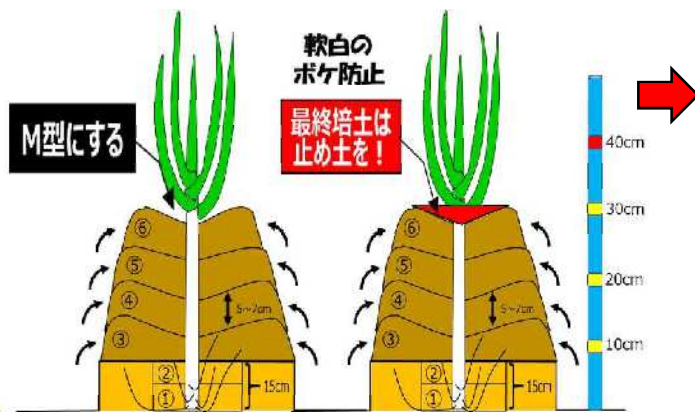
ながねぎ栽培で
最も重要な作業

回数	内容
1回目	定植後20～30日頃。 「戻し土」を行い、溝が地表と平らになるようにする。 葉数は5枚前後。
2回目	1回目から20～25日目頃。 葉の分岐部の下まで15～20cm寄せる。
3回目	収穫予定の25～30日前後に最終培土。 葉の分岐部の上まで土を寄せる。株元が凹まないようにする。

あくまでも目安。生育状況を確認して培土を行う。

培土のイメージ

【培土のイメージ】



- 培土は20～25日間隔で実施。
- 収穫25～30日前に最終培土を終了。
- 最終培土は止め土をし、軟白のボケ防止対策を講じること。

定植後に目安棒を設置すると培土の目安になる!



培土の注意点

培土のやり過ぎに注意!

- 培土作業は根の切断を伴うため、過剰な培土は生育停滞の原因となる。
- 更に、肥料切れや病害の発生を誘発し、減収する可能性もある。
- 1回目の埋め戻しを含めても、4回以内が理想。

培土時の条件について

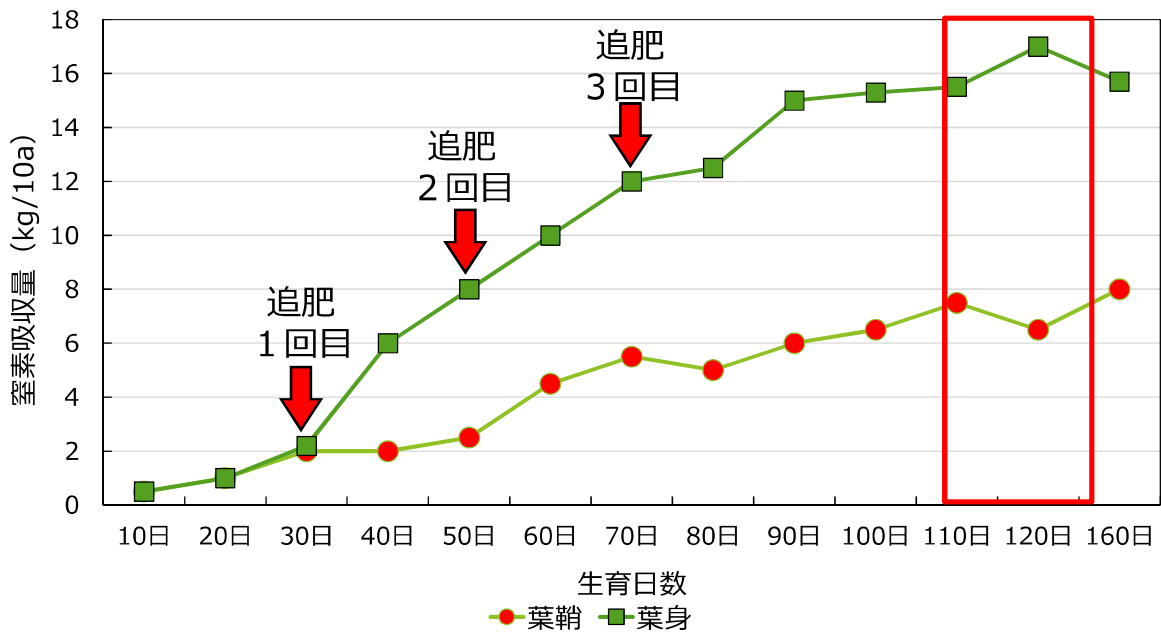
- 高温乾燥時には培土を避ける!



追肥について

追肥時期：定植後30日、50日、70日

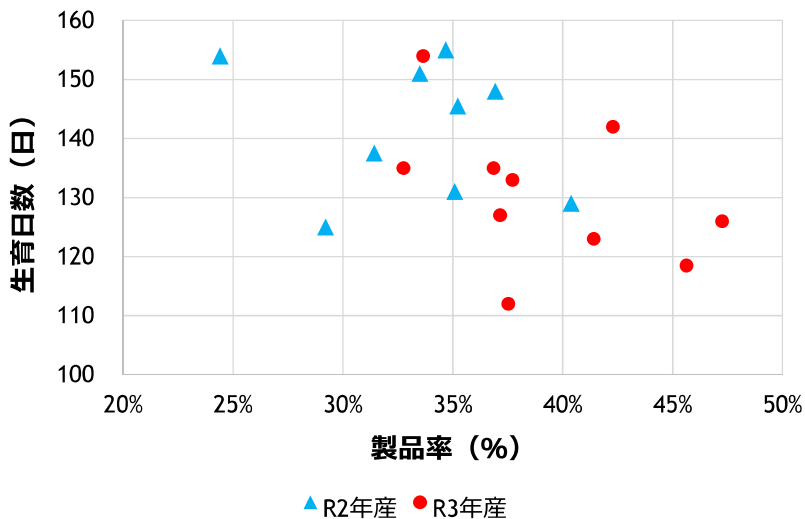
収穫期



収穫時期に葉身の窒素吸収量は最大になる。窒素と加里の養分吸収量が多いために肥効を維持するかが収量増につながる。

培土の重要性

生育日数と製品率の相関



製品率	生育日数平均
40%以上	127.7
40%以下	138.8
35%以上	130.8
35%以下	144.5

- 生育日数が長いほど、製品率は低くなる傾向
⇒ 在圃期間が長いと品質劣化、病害発生などのリスクが高まる。
- 追肥や培土の技術で生育を前進させる努力が必要！
- 生育期の葉面散布を行う場合は、3回を上限にする。

培土3回でも高製品率！

- 事例紹介 I 氏
- 作業履歴
定植日5/8～
培土3回
収穫開始日9/4～
- 製品率47.3%



- 培土時にはなるべく根を切らないよう意識しているとのこと。
- 少ない培土回数でも、タイミング次第で歩留は向上する！

ご静聴ありがとうございました